

各議員の顔写真の下にQRコードを掲載しています。このQRコードをスマートフォンやタブレットで読み取ると、その議員の一般質問動画をすぐに視聴することができます。

**森 耕治** 議員 (11 ページ)

1. あま市南部のまちづくりについて

**松下 昭憲** 議員 (12 ページ)

1. 方領地区の工業団地について

**亀卦川 参生** 議員 (12 ページ)

1. 全小学校に放課後子ども教室の開設を
2. ごみ減量化への努力を求める

**近藤 陽一** 議員 (13 ページ)

1. 人権教育などについて

**橋口 紀義** 議員 (13 ページ)

1. あま市巡回バスの見直しについて

**伊藤 嘉規** 議員 (14 ページ)

1. 県・市道の進捗および見直しについて

**倉橋 博** 議員 (14 ページ)

1. 県道・市道整備について

**足立 詔子** 議員 (15 ページ)

1. 行政情報アプリについて

**山内 隆久** 議員 (15 ページ)

1. 多文化共生について

**山本 雄一** 議員 (16 ページ)

1. あま市民病院について

**野中 幸夫** 議員 (16 ページ)

1. 踏切などの安全対策について

**問** 名古屋津島線バイパス七宝工区開通時に予想される信号位置は、整備済みの部分も含めた危険箇所などの問題点について、今後対応してもらえるか。

**建設産業部長** 信号は七宝庁舎南交差点から西へ、川部地区内に1カ所、下田地区内に2カ所で計3カ所の交差市道に設置が検討されている。

**都市計画課長** バイパス整備関連の問題における相談や要望に対しては、整備主体である県と説明や対応に努めていく。

**問** 都市計画道路安松鷹居線の未整備部分である川部地区内は、道路幅も狭く歩道もないため、非常に危険な状態である。名古屋津島線バイパス整備と一体的に取り組むことが重要では。

**建設産業部長** バイパス整備の進捗に合わせ、地権者のご理解とご協力をいただき、計画的に進めていきたい。



森 耕治 議員



あま市南部のまちづくりプロジェクト

**市長** 大変重要な事業の1つであり、計画的にしっかりと取り組んでいく。

**問** 七宝庁舎の機能移転が決定しているが、名古屋市高速鉄道6号線(地下鉄など)の計画では庁舎南側を駅舎として想定されている。この計画がある以上、整合性がとれるように慎重に考えてもらいたい。新庁舎建設後の跡地利用は。

**企画政策課長** 社会情勢の変化といった将来の状況を想定し、最適な活用方法を検討しているが、現在は未定。



安松鷹居線(川部方面)

# 方領地区の工業団地について



松下 昭憲 議員



26年度に調査を行った。全部で32カ所の試掘を行い、調査の結果、県教育委員会から本発掘調査の必要はないという回答をもらっている。

**問** 今後の販売計画は。

**産業振興課長** 平成32年までに開発要件を整え、33年度には事業用地造成者と基本計画を締結し、34年度以降に造成を再開、販売をしていく。

**問** 企業誘致への工夫は。

**産業振興課長** 固定資産税以外にも法人税なども含め、緩和策を考えている。

**問** 工業団地予定地は、東海豪雨の際に水があふれた森遊水地の南側にあるが、今まで貯水池の役割を果たしていた田んぼを5万坪も埋め立てることになり、水の行き場がなくなる。地域の人の生命や財産を守ることができるのか。

**建設産業部長** 水田の遊水池機能が失われることになるため、本年度の土地利用構想検討業務において、農地の高さや現況排水系統の調査を行い、降雨流出量の算出、調整池や排水路などの検討を進めている。

**産業振興課長** 福田川の排水施設は現在6カ所あり、排水機場の新設や更新をし、排水能力の低下を招かないよう進めていきたい。

**問** 一部に方領遺跡があるが、発掘調査は適切な方法で行われているか。

**生涯学習課長** 文化財保護法に基づき、



方領地区の工業団地予定地

# 全小学校に放課後子ども教室の開設を



亀卦川 参生 議員

②ごみ減量化



①子ども教室



**問** 先の通知には、児童クラブと放課後子ども教室の一体型を中心に進めるとある。住民が行った調査では、七宝地区だけで140人近い利用希望がある。真剣に検討を。

**市長** 放課後子ども教室が大事なことは重々承知をしているが、幼保小一体となり小1の壁を打破するため、まずは、児童クラブを優先的に整備したい。

他に「ごみ減量化への努力を求める」質問もしました。

**福祉部長** 調査は実施していない。1

教室20人程度が目安。

**問** 国や県からの連絡で力を入れていけるものがある一方、なぜ放課後子ども教室について真剣な検討ができないのか。また、平成26年7月の文科省・厚労省からの通知では、放課後子ども教室についても計画的な整備が必要としており、市民からも多くの要望がある。市内の全ての小学校で放課後子ども教室を実施すべきでは。

**市長** 待機児童や地域の実情などの問題があり、児童クラブを優先して整備することが、今は課題だと考えている。



## 人権教育などについて



近藤 陽一 議員



**問** 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律の基本理念をどのように理解し、政策に取り入れているか。また、どのような人権教育の目標設定をしているのか。

**教育部長** あま市教育大綱および教育立市プランの重点施策の1つである「人に思いやりを持ち、ともに生きる子どもを育む」を掲げ、人権教育を推進している。また、人権教育研究会では「人権尊重の確かな認識を培い、温かい人間関係を育む教育」をテーマに、人権を尊重した教育への視点を重視し、目標を設定、人権教育の推進と充実を図っている。

**問** 人権教育の全体計画、年間指導計画の内容は。

**学校教育課長** 小中学校の教職員研修を中心に、教職員総会および人権教育研究会総会、海部地区人権教育講演会

などを開催し、人権教育に対する共通理解や啓発について学習を深めている。

**問** 甚目寺中学校の校門に人権尊重モニュメントが設置されているが、設置していない学校があるのは、なぜか。

**学校教育課長** 甚目寺中学校を市内全小中学校の人権教育をリードする先進校として位置づけ、モニュメントを設置している。他の学校については、人権タイムの実施、やくそくノートの活用、スリーハート運動など、各学校の実情に合わせて人権教育・啓発に取り組んでいる。



人権尊重モニュメント

## あま市巡回バスの見直しについて



橋口 紀義 議員



**問** 試行運行開始からの利用人数は。

**企画財政部長** 西部巡回ルート左回り4284人、右回り4222人。東部巡回ルート左回り2411人、右回り2197人。

**問** ルートの見直しの検討状況は。

**企画財政部長** 市民アンケートや意見交換会を経て再度検討し、あま市地域公共交通会議で協議され、合意を得た。

**問** 現状のままで運営していくのか。

**企画財政部長** まだ決まっておらず、市民の意見や利用状況などを踏まえ、運行形態全般の見直しも考えている。

**問** オンデマンド方式は、無駄な走行を抑え、利用者の時間短縮になる利点があるが、検討したのか。

**企画財政部長** 先進自治体への視察も行ったが、アンケートでは定時定路線運行を望む回答が多かった。

**問** アンケートで最も多かった要望は。

**企画政策課長** 高齢者や障害者など、車で移動できない方のために必要との意見や、運行していない地域でバス停の設置を望む意見が多かった。

**問** ルート変更の案内は。

**企画政策課長** 市公式ウェブサイトでの公表やリーフレットの全戸配布、各施設や停留所および車両内への掲示、ぎずなネットでの配信などを予定。

**問** 停留所やバスを目立つようにする検討は。

**企画政策課長** 本格運行の際に検討したい。



あま市巡回バス

## 県・市道の進捗および見通しについて



伊藤 嘉規 議員



**建設産業部長** 今後、旧市民病院跡地利用計画などが進む中で、歩道の必要性も含めて考える。

**問** 新庁舎建設予定地周辺のアクセス道路整備は、南北線および西部方面しか検討されていない。東部方面から必要では。また、江上田地区からの道路拡幅も必要では。

**企画財政部長** 周辺道路整備の検討をしたが、橋の新設や沿線上の市民への影響などから、非常に難しい。

**土木課長** 利便性の課題は認識をしている。

## 県道・市道整備について



倉橋 博 議員



**問** 進捗状況と今後の見通しは。

**建設産業部長** 県道津島七宝名古屋線伊福交差点改良は、平成28年度末までの用地取得面積は約25%、県は平成33年度末までの供用を目標としている。

名古屋津島線バイパスは、順次用地買収が進んでおり、早期供用開始に向け引き続き、事業促進に必要な予算が確保されるよう県に要望していく。

**土木課長** 主要地方道あま愛西線坂牧東交差点改良工事は、順次用地買収を進めており、平成28年度末までの用地取得面積は約42%。今後は平成33年度末の供用開始を目標に、県が用地買収を進めている。

**問** 未整備道路の整備計画は。

**建設産業部長** 県道須成七宝稲沢線は、名鉄津島線北側区間で地元組織と県道整備に関する課題や周辺のまちづくりなどの検討をし、取りまとめを進めて

いる。今後は県に対し、早期事業化に向けた具体的な要望を行っていく。

**土木課長** 丹波交差点改良、篠田交差点改良ともに地元から要望を受けており、候補地に挙がっていると県から聞いている。

**問** 狭あい道路の整備は。

**都市計画課長** 土地区画整理事業や地区計画、建築基準法のセットバックに伴う整備により解消を進めている。今後も、良好な市街地の形成や生活環境の向上に努めていく。

**問** 県道西今宿東条線はいつ完成するのか。進まない原因は。東側の萱津地区の発展を妨げているか。

**建設産業部長** 平成33年度末の供用開始予定で、地権者と用地取得に向けて交渉中。条件面で折り合いがつかず、未買収地の点在が原因。完成後は安全性が改善されて往来も容易になり、東側の発展につながるかと期待している。

**問** 交差点が危険で警察の指摘により、巡回バスが上萱津を通らなくなった。上萱津・中萱津地区では、移動が不自由な高齢者は買い物や病院にも行けない。その上、道路整備が遅れており、余計に不便になっているが、考えは。

**土木課長** 県に対し、一刻も早い完成を要望していく。

**問** 市道新居屋甚目寺線の甚目寺駅北西の信号北側の歩道を南側のように拡幅できないか。



甚目寺駅北西信号の北側道路



主要地方道あま愛西線坂牧東交差点

## 行政情報アプリについて



足立 詔子 議員



**問** 総務省の平成28年度情報通信白書によると、スマートフォン（以下「スマホ」）の保有率は72%となり、今後も利用者が増えていくと思われる。スマホでは、さまざまなアプリケーション（以下「アプリ」）により、その場で情報を得ることができるため、今後もアプリの活用が期待をされている。全国の自治体では、スマホを利用した行政情報アプリが活用され、登録をするなどで防災情報や子育て支援など、生活にかかわる情報を受けることができる。あま市も行政情報アプリを導入し、住民サービスの向上に努めるべきでは。

**企画財政部長** 広報紙をスマホで、手軽に読むことができる行政情報アプリの導入を検討している。今後、子育て情報や防災情報など幅広い分野を通知するアプリや、その他スマホを活用した情報発信の研究を進めている。

**問** どのような行政情報アプリを導入するのか。また、導入時期は。さらに、県内でのアプリ導入状況は。

**企画政策課長** 多くの自治体に取り入れている無料アプリ「マチイロ」の導入を検討している。気軽に広報などの情報を手にすることができ、導入や保守には費用もかからず、利用者も通信費のみで利用できるものとなっている。導入の時期は、今年度中を目指している。また、県内38市中27市が、さまざまな分野のアプリを導入している。



## 多文化共生について



山内 隆久 議員



**問** グローバル化により、多文化共生はすでに地域の課題。あま市の現状は。

**企画財政部長** 外国籍住民は増加傾向にあり、平成28年末時点で1885名。「在住外国人のための生活ガイドブック」を英語、中国語、ポルトガル語で発行し、窓口では簡単な日本語で意思疎通を図っている。外国人を含め、全市民が安心して暮らせるまちづくりを積極的に取り組んでいきたい。

**企画政策課長** 市内における外国人の人口比率は、平成28年末時点で2.13%。

**問** 外国人とともに日本人への外国文化理解や他文化の受容、啓発が大切では。

**企画政策課長** あま市国際交流協会では、甚目寺地区や美和地区で日本語教室や外国人相談を実施。また、料理教室や餅つき大会など外国人と日本人の

交流会や、防災啓発、日本語ボランティア養成講座など、相互理解のための活動を行っている。

**企画財政部長** 国際交流協会の支援や協働へ積極的に取り組んでいきたい。

**問** 市の人口推移からも外国人は多国籍化し急増。市役所でも英会話など、職員の資質向上が必要では。

**市長** 多文化共生は、あま市にも必ずやってくるので、お互いがそれぞれの価値観や個性を尊重する人権尊重のまちづくりのために真摯に前向きに取り組んでいきたい。



在住外国人のための生活ガイドブック

## あま市民病院について



山本 雄一議員



**問** あま市民病院改革プランでは、改善活動の効果がなければ経営形態の見直しが必要と示されている。土地・建物などを売却する民間譲渡ではなく、市が土地・建物などを所有し、管理・運営をプロに任せる、公設民営である

指定管理者制度の募集が現在行われているが、募集要項などを取りに来ているが、現地見学をした法人数はいくつか。  
**市民病院事務局長** 3法人となっている。

**問** 指定管理について平成29年12月議会で議決されると、平成31年4月から指定管理が開始される。その1年3カ月ほど、安定した医療サービスを提供することが重要であるが、対策は。  
**市民病院事務局長** 公的医療機関の役割を担う必要性から、医療従事者一人一人の力が必要であることを丁寧に説明し、理解してもらえよう努力する。



あま市民病院

**問** 改革プランでは、指定管理者制度が経営改革に最善だと示された。指定管理者に期待する目指すべき病院像は。  
**市長** 指定管理者には2次救急医療の実施と、名古屋第一赤十字病院との連携強化により、地域医療を支える取り組みを行ってほしい。また、「医の心を持って地域の人々の健康と福祉を護ります」という市民病院の基本理念を実現するために、地域から求められる医療機能を充足してほしい。

## 踏切などの安全対策について



野中 幸夫 議員



**問** 名鉄青塚駅や七宝駅の踏切で死亡事故が起きている。踏切の安全対策を強化すべきだが、対策は。  
**総務部長** 平成24年9月25日七宝駅東側踏切、本年7月23日、多くのあま市民が利用する津島市内の青塚駅東側踏切で、尊い命が失われている。交通事故防止啓発では、踏切事故を取り上げていないが、今後広報やホームページで安全対策の啓発をする。また、名鉄と協議し安全対策をしていきたい。

**問** 七宝駅は、駅員が配置されておらず、駅構内の踏切の安全対策がおろそかになっているため、名鉄へ対策を強力に要請すべきでは。また、朝の時間帯に踏切での特別な対策や人的配置が必要では。

**安全安心課長** 現在、駅近くの踏切への人員配置は行っていないが、ボランティアの活動を含め検討していきたい。

**問** 名鉄西枇杷島駅周辺では、清須市交通安全協会の方が、朝7時から5〜6人で交通安全指導をしており、駅構内も駅員が注意喚起をきちんと行っている感じであった。踏切対策は他の交通安全対策と違い、後回しにされている。死亡事故の状況から見ても、重点的な対応が必要では。

**安全安心課長** ボランティア団体と協議や連携をとっていく。また、他市の交通安全担当者との研究会や協議会で、連携を考えていきたい。



名鉄七宝駅内の踏切

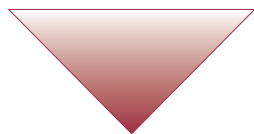
# 追跡 一般質問

## その後どうなった？

1年前に行われた一般質問の結果を報告します。

### 質問

集中豪雨の規模が拡大しており、現状の排水能力で十分か。鷹居排水機場の排水能力は。



### こうなった

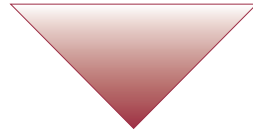
県営湛水防除事業宝南1期地区として、平成22年度より更新事業が実施されている。29年度はベルトコンベア、ホッパー、ゲートの設置および場内整備を行い、本年度整備完了の予定。今後も訓練を通し、機動的対応の確保に努める。



鷹居排水機場

### 質問

産後ケアの必要性が高まっているが、妊娠期から切れ目のない子育て支援について、今後の取り組みは。



### こうなった

平成29年4月から新生児訪問などの母子保健事業を通じ、支援が必要な方に対し、助産師による訪問や電話での授乳相談、産後の心身サポート、育児相談を行っている。



美和保健センター